

佐用高等学校
同 窓 会 報

塔 陵

発 行 所
兵庫県佐用郡佐用町佐用260

兵庫県立
佐用高等学校同窓会

電話 0790 (82) 2434(代)

FAX 0790 (82) 2719

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/>

印 刷 所
谷 本 弘 輝 堂

第六十五回

全国高等学校陸上競技対校選手権大会

近畿地区予選会

男子五〇〇〇m競歩 三年西川尚孝



困難な時代だからこそ



同窓会長 谷 本 学

高校二十一回（昭和44年卒）

一年の過ぎるのが早いこと、早いこと。特に六十歳を超えてからの一年はあつという間に去って行きます。平成二十四年も残すところあとわずか、同窓生の皆さまにはご壮健にて、お過ごしのことと心よりお喜び申し上げます。

今年の明るいトップニュースといえば何と言っても、iPS細胞の研究でノーベル賞に輝かれた山中教授でしょう。研究成果については私が申し上げるまでもありませんが、あえて「山中さん」と名前でお呼びしたくなるような、インタビュでも誠実さと人柄が出ていて、とても好感が持てました。そんな山中さんも医師の時代は「ジャマナカ」と呼ばれ、皆の後を追っかける存在だったとか。しかし研究医に転身されてからの「山中さん」は水を得た魚のように研究に没頭して、素晴らしい研究成果を上げられ、世界の「山中」といわれるようになったのでしょう。

さて、ヘッドハンターなどといわれ、転職の成功事例をたまには耳にします。職業を変えることはよくありますし、決して悪いこととは思いません。

しかし高校を卒業、就職して一年以内に仕事を辞めてしまう割合、離職率が三十五％に上るといふ統計が出ています。今の時代自分に合った仕事、職業を見つけるのはなかなか難しいかもしれませんが、一年では自分に適しているか、自分の特性をいかせるのか、結論を出すには早すぎるようにも思えます。

この佐用高校を育つていった子どもたちが社会の荒波の中で、「我慢」の二文字を体験することがなく、彷徨い続けることがないように、佐用高校在学の三年の間に勉学に、クラブ活動に「我慢することの大切さ」を勉強していつてほしいと願っています。

同窓生の皆様にも、母校佐用高校を育つていく後輩達に温かいご助言と同窓会の活動により一層のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、ますますお元気で活躍されますことをお祈り申し上げます。

『明るくいいき睦かがやく 佐用高校』く本気く



校長

河野 雅晴

同窓生の皆様には、平素より本校の教育活動に各方面からご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

本年度は、校訓「自主独立・敬愛協力・創造工夫」の基、「明るくいいき睦かがやく佐用高校」をスローガンに、「本気」をキーワードに加え、生徒・職員が一丸となって地域に根ざした学校、きめ細かな指導により生徒の個性や能力を最大限伸ばせる学校をめざすとともに、三年前の豪雨災害の教訓を生かし、防災教育やボランティア

活動を通じて心の教育を推進して参りました。



さよう大収穫祭

スローガン。

地域に根ざした学校として、上月の桜まつり、平福まつり、納涼祭や秋の収穫祭・文化祭等、地域のイベントに積極的に参加してきました。また、棚田・ひまわり畑・花菖蒲園・茶畑等の管理や保育園・小学校との連携授業等、農業科学・家政科を中心に授業を通じて地域と繋がって参りました。

普通科は、習熟度や進路希望に応じた類型別学習が充実、生徒の学力は着

実に伸びています。

理数教育の一環として「数

学・理科甲子園」

に初出場、六十の参加校の中

で二十一位（西播

地区では姫路西、

龍野、相生を抜いて一位）と健闘しました。出場者は二年丸山修平、水原宝英、一年田中海斗、長井絢斗、吉澤楓香、山崎麻友です。来年度のさらなる活躍を期待したいと思います。

防災教育については、防災教育講演会を二回（絵画を通じた東北支援活動）絵画教室アトリエ太陽の子代表中嶋洋子、「命を守り救う」災害報道の現場から」NHK大阪支局専任ディレクター 近藤誠司）、東北復興支援ボランティアを二回（七月と十二月）実施、九州北部豪雨災害の義援金募金活動（八月姫路駅北で二日間）等、積極的に実践してきました。

本年度からの新たな取り組みとして西はりま天文台、スプリング8との連携授業を行っております。また、県下六校の県立高校と合同で夏休みを活用した西オーストラリアでの海外語学研修を始めました。また、農業科学科二



西オーストラリアでの海外語学研修

年の男子生徒二人がこの秋、県の農業後継者育成事業でブラジル研修に行くなど、地域の強みやグローバル社会に対応した取り組みを行っております。さて、皆様もご存知のように地元の



ブラジル研修

中学生が減少する中、平成二十七年度入試から五学区制が導入（姫路・福崎学区と西播学区が統合、通学範囲が広がる。）されることになっており、大変危機感を抱いております。

その対策として、本校の素晴らしい取り組みや実績を地域の方に知っていただくことが重要ではないかと思っております。この意味で本年度から町内の小中学校に『佐用高だより』を配布させていただいております。地元の小中学校との連携を進め、地元に応援していただくことが何より大切であると思っております。同窓生の皆様のご支援をお願い申し上げます。

特 志 寄 稿

温故知新

刀匠 高 見 國 一

高校四十四回（平成四年卒）



世界に類を見ない鉄の芸術日本刀は「折れず、曲がらず、よく切れる」と言う武器としての機能性を追求した長い日本の歴史の中で、美しい地鉄と刃文と姿が考えられました。

皆様もご存知だと思いますが、日本古来の製鉄技術は「たたら」

と言います。そして、西播磨地域では宍粟市や佐用町を中心に古来より「たたら」による鉄造りが盛んに行われてきました。たたらを操業する為には良質な砂鉄と木炭と、たたら炉を作る釜土が必要であり、その善し悪しが鉄の出来方に大きく影響されます。西播磨地

域では、良質な砂鉄と木炭の材料となる豊かな森林に恵まれていたので、良質な鉄を産出する事ができたのです。

日本刀には山城伝、大和伝、備前伝、相州伝、美濃伝の五ヶ伝があります。その中でも名刀名工を一番多く輩出したのが備前伝です。現在、国宝や重要文化財の刀剣の約半数は備前刀と言われています。

この備前の刀工達が使用した鋼は宍粟鉄で千種鉄とも呼ばれ、吉野川、千種川、揖保川を下って備前まで運ばれていたのです。このように、西播磨に於ける製鉄、鉄の文化は輝かしい日本刀の文化と歴史と共に、切っても切れない関係であったのです。

古来より我が国では、刀剣に対して特別な想いをもって大切に扱ってきた長い歴史があります。三種の神器に剣があるように、それは単に武器としての消耗する道具という以外に、信仰、儀礼的用途、また純粋に鑑賞の対象としての宝物としての役割をもってきた事です。他の美術・工芸品にさががけて、すでに鎌倉時代には刀剣工匠の特色を記した「銘尽」本があらわされており、先人たちが実用を離れ、古い時代より刀剣の保存に努力し続けられてきたのです。

私は高校卒業後、河内國平師に入門しました。厳しい修行の中で、仕事の腕以上に刀工としての生き様や構えなど沢山の事を学びました。年月の過ぎるのは早く、もう二十一年が過ぎました。構えが出来、自分の作品が大きな賞を受賞し認められる程に目標も高くなり、何時も悩み苦しみながら作刀しています。

現存する日本刀の中には、心を洗われるような名刀や、美しさに吸い込まれるような名刀が現存します。それらの全ての日本刀と勝負していかねばならないのです。自分の身を削り、願いや想いを込めて打ち込むからこそ、人の心を打つ作品が出来るのです。同じ人間が作ったのだから自分にも必ず出来ると思っています。失敗をした時にそこで止めるから失敗なのです。成功するまで止めなければそれは失敗とは言わないのです。古来より播磨には名工は存在していないので、この播磨の地より名の残る刀を作り、残す事が私の生涯の目標です。これからも探究心をもって失敗を恐れず強い心で頑張ります。そうする事により、地元西播磨の文化や歴史、教育にも恩返しが出来ると思っております。

高校生活の思い出

森本 實

定時制四回生

私は、昭和二十六年から昭和三十年までの四年間平福分校の定時制へ通学しました。平福分校定時制は、夜間の高校でなく昼間に授業を受ける昼間定時制で、週四日の登校日と後の二日は家で男子は主に農業科目を、女子は家庭科目を実習しました。

当時の平福分校には独立校舎がありませんでしたから、入学式は佐用高校の講堂でしたが、その後通学は、旧利神中学校や旧平福小学校の空いた部屋を借りる間借の学校生活でした。間借のために、時間ごとに教室を移動するなど不便な授業を受けていました。また、日本の経済が高度成長に向かう前で、田畑を耕す農業よりも多くの収入が得られる工場などが増えて就職しやすくなり、入学した時には二十八名いた同級生が次々と退学して、四年後の卒業式は八名になる寂しさでした。

事情の多い学校生活でしたが、「働きつつ学ぶ」定時制の精神を当時の先生から言葉や身体を通して教えられた。その内容は家に農業実習をする田畑を持ち、稲や麦・野菜などを自分の力で育て、収穫物を販売する家庭学習（ホームプロジェクト）を必ずすることでした。牛を使って田畑を耕作し、手による稲の田植や刈り取りをする時代だけに大変でした。また、当時は鶏の卵

が高価でしたから、家で手軽にできる十羽養鶏をしていました。雛十羽を育て約一五〇日で成鶏になると、毎日に約七個の卵を産み、平均で一個が十円に売れたからその利益で学費や小遣いにしました。ちなみに、当時一日の労働賃金は、田植などの重労働が約八〇〇円、一般的な男子の仕事は五〇〇円、米一升（一・八ℓ）が二五〇円していました。

これらの家庭学習は、実習担当の先生が家庭訪問をして実習田など見て指導して下さいました。また、生徒同士も四年生を中心に見て回りその生育や飼育状況などを討議して、相互の力をつけるのに役立てました。その結果を発表する家庭学習研究発表会が三学期にあり、ホームプロジェクトの成果を発表するなど身体を通して学ぶことができました。この四年間の高校生活は恩師の諸先生方の熱意のこもった指導で、私に多くの思い出と今日まで生きる力を与えられました。

私たちの卒業後、平福分校は小さいながらも独立校舎が建ち高校としての体制ができましたが、時代の流れで農業が衰退し、入学生も減少して平福分校も廃校になりました。跡地には新しい平福小学校ができましたが小学校も統合で無くなり、今は佐用町福祉セン

ターがあり、旧利神中学校も佐用中学校へ統合して跡地は自動車学校に変わっています。

今の私は、水稻六十二aを作り、休耕田三十aに野菜や豆類などを栽培して、健康づくりに励む一方、利神小学校五年生の児童に、長谷地域の方と協力して昔の稲作体験をと、もみまきから田植そして

八反返し、除草、秋の稲刈りとはげかけ、脱穀作業（千歯こぎ、足踏み回転脱穀、コンバイン）、収穫祭の餅つき、年末の注連縄作りなど、一連の農作業



稲作体験（田植）



稲作体験（八反返し・除草）



稲作体験（稲刈）

七回を一緒に続けてから今年で十年目になりました。この取り組みができるのも高校時代に学んだお陰だと感謝しています。

紙漉・石造文化財「宝篋印塔」に魅せられて、そして点と線

淡路 剛

高校二十一回（昭和四十四年卒）

趣味の書道が縁で上月の皆田和紙保存会との出会いがあった。和紙の製法は、一五〇〇年前に高句麗から伝えられたといわれている。和紙は、中央政権の記録と王朝文化や仏教文化の発展になくてはならぬものとして全国で漉かれるようになった。播磨の国は、古くから紙を作ってきたことで知られ、

奈良時代には丹波の杉原紙の名前が生産地として記録に残っている。原料は主に楮の皮で、一枚の紙ができあがるまでに、楮の刈り取り、皮むき、さらし、たたき、紙漉、干しなど二十工程以上があり、それに応じて考案された用具と積み重ねられた巧みな技は、その家族と地域だけのもので、門外不出

として発展してきた。上質な和紙は、高価で貴重品として取り扱われた。

皆田和紙は上月を中心に室町から明治にかけて行われていた製紙業で、杉原紙から製法が伝わったとされているが由来については不明である。文明七(一四七五)年奈良の大乗院の法会で皆田紙の記述があり、このころから、上質な紙として中央で流通するようになったと考えられる。江戸時代には、厚地の紙「播磨海田」で広く全国で使われるようになった。近年安価なパルプ紙の流入で衰退して、昭和四十年代に終焉した。現在は、地元有志によって保存会が立ち上げられて、道具と紙漉の技が守られている。和紙は、製造過程が多岐なために高価になるが、触れる者に手作りの息吹が伝わってくる。書道や版画など日本古来の文化の用紙として重宝されている。

退職をしてまもなく、宍粟市の郷土史研究家の森本一二氏に誘われて、宍粟と佐用に存在する宝篋印塔を尋ね歩くことになった。小高い山の砦跡や寺院や墓地等に、今も地元の人々によって祀り守られている。室町時代、嘉吉の乱で山名氏と赤松氏の攻防戦で戦死者の供養と勢力を誇示するために建立されたことなどを教えていただいた。左右前後が対称に造られ蓮の花が飾りとして彫り込まれ、「この時代よくこんな精巧な物が石に」と感心することしきりであった。瑠璃寺、円応寺の宝篋印塔はどっしりとして見るものに威圧感を与える。雪花姫の宝篋印塔はお

姫さんだけあって気品があり美人である。だんだんに宝篋印塔に魅せられるようになった。

この後、村上紘揚先生(佐用高校の恩師)を中心とする西播磨歴史研究会のメンバーに加えていただいた。当面は、千種川水系の宝篋印塔に取り組むことになった。宝篋印塔は、「宝篋印陀羅尼經」を納める石造の供養塔で、鎌倉中期から、造立されるようになった。千種川水系の宝篋印塔は千種町から上郡町まで数多く残っており、様式や年号の記名から主に鎌倉末期から南北朝室町時代のものであることが確認された。さらに造立場所から、タタラ跡鉄山と関連するのではないかと、赤松氏との結びつきが推測される。そして、播磨の宝篋印塔のルーツを探るため、但馬・丹波・丹後の宝篋印塔現地調査を行った。京丹後市の縁城寺宝篋印塔は、国指定の重文で総高三メートルを超える。正平六(一三五二)年南朝方の年号が使われている。安国寺宝篋印塔は、足利尊氏・妻・母供養塔として祀られている。福知山の金光寺宝篋印塔は、崖のうえに建立されており総高三・八メートルもある。単なる石碑ではなく、三重の塔・五重の塔に匹敵する建造物としての塔の部類に入れられている。鎌倉幕府滅亡、南北朝、室町幕府成立を巡る、足利尊氏、義満と赤松円心、則祐との結びつきが宝篋印塔からさらに深く見えてきた。

上月の紙漉資料館横にある大谷家墓地の宝篋印塔に「貞治四年(一三六五)」

の銘文が刻まれている。丹波白毫寺の宝篋印塔にも「貞治四年(一三六五)」の銘文が刻まれている。丹波は南北朝時代に赤松円心の次男貞範が領主であった。この時代に杉原紙の製法が赤松氏の本拠地西播磨に大きな政治力で持ち

ゴルフと百姓

「ゴルフと百姓」妙な組み合わせであるが、現在私が仕事以外に結構まじめに取り組んでいる道楽(趣味)である。ゴルフは、サラリーマンの嗜みとして、三十年前に始めた。広々としたフェアウェイで思いっきりボールを打ち、無邪気にボールを追いかける醍醐味にすっかりはまってしまう。今でも、月に何回か、家人の冷たい視線にも挫けず、いそいそと早朝から出かけている。

佐用にも、何箇所かゴルフ場があり、住んでいる神戸から高速道路経由で一時間弱という便利さと、手頃なプレイ代に釣られて、何回ともなく利用させてもらっている。以前、旧上月町の方に、「ゴルフ利用税収入が町に年間二〇〇〇万円前後ある。」と聞いたことがある。となると、私も、額は少ないが、ゴルフを通じてふるさとに貢献出来たのかと妙な満足感に浸ることもしばしばである。

百姓の方は、正確に言えば「百姓のまね事」である。知人から「自分が借りている家庭菜園で隣の区画が空いた。

込まれて、上質な紙が漉かれ、赤松氏によって奈良京都に流通するようになった。赤松氏は、鉄だけでなく紙でも大きな経済力を蓄えたと考えるのは、宝篋印塔の点と点を結びつけ線にする私だけのロマンであろうか。

石堂 叶

高校二十三回(昭和四十六年卒)

一緒に野菜を作りませんか。」と誘われ、軽い気持ちで「やってみます。」と返事したのが、三年前である。種を蒔いて肥料をやっておけば、野菜なんて勝手に育つと思っていたが、意外と経験に裏打ちされた知識と知恵に加えて、少しばかり体力が必要ことが判ってきた。植え付けや施肥のタイミングを誤ると収穫量が大幅に減少することを経験した。とはいえ、所詮は百姓の息子、そのDNAを受け継いでおり、三十年かけても初心者域をでないゴルフに比べれば、僅か三年で、そこそこにお百姓さんらしくなったと勝手に思っている。

二〇一三年三月で定年退職を迎える。今までみたいに、週末はゴルフ場か畑という慌ただしい生活とは縁が切れそうである。平日も、道楽につき込める時間はたっぷりある。一方、経済的成約が厳しくなり、ゴルフ三昧とはいかない。百姓の子らしく野菜作りをしなから新たな人生を過ごすのが自然な成り行きと思う昨今である。

出会いと発見

小林 正和

高校四十五回（平成五年卒）

佐用高校を卒業して、二十年が経とうとしています。縁あって三年前から、佐用で働くことになりました。

職場は、社会福祉法人はなさきむらの「なのはな」という、比較的重たい障がいをもつとされる方の通所の施設です。久崎の駅前にあります。いろいろな方法で創作活動に取り組んだり、光や香・音楽を楽しんだり、プールで体を動かしたり、買い物や海や山にでかけたり、地域の方と喫茶をしたりしています。

私が、今の仕事をするきっかけとなったのは、ある家族との出会いでした。大学時代の下宿の近所に、夫婦とも脳性麻痺で食事やトイレに介助がいる四十歳代の男女がいました。彼らは、市営住宅に住み、友人や近所の人の介助を得ながら、生活し子育てをしています。この家族とのつきあいを通して、「障害があっても地域の中で暮らしたい、子育てをしたい。予め用意された計画や枠組みの中で一方的に管理されるのではなく、町の中に居て当たり前の存在として、友人や近所の人間関係の中で、日々やりとりをしながら、普通に助け合って生きていきたい。」という思いを知りました。その思いに答えたいと思いました。

今前の人生を振り返ってみて、この

家族との出会いを含め、いくつもの大切な出会い、そして人間関係が思い起こされます。その時々、様々な気持ちを抱いてきました。苦しい時、腹が立つとき、尊敬の念を持つとき、恋愛と惜別などなど。そのさまざまな気持ちが人生を味わい深いものとしてくれていると思います。

重たい障がいを持つとされる方にとっても、様々な人との出会いが、彼らの人生を豊かにすると思います。「なのはな」の利用者は、自由に移動ができなかったり、言葉をうまく操れなかったりする面がありますが、地域の方に来て頂く喫茶の時などのうれしそうなお様子から、いろいろな人に出会いたい、いろいろな経験をしてみたいという気持ち、強く持つておられるように思います。「なのはな」が、そのような人間関係を育める場、人生を広げることのできる場の一つになればと思っています。

しかしながら、「なのはな」は、利用者、職員合わせて、十人そこそこ少なく、人間関係やアイデアが限られ、うまくいくところもあります。ともすれば、管理する側とされる側という固定的な関係になることも危惧されます。前出の脳性麻痺の夫婦が、友人や近所の人と折り合いをつけながら、多様な人間

関係の中で変化のある日常を生活しているように「なのはな」がなればと思います。

そのような中、ボランティアの方々や地域の方々に、「なのはな」にお願いしたいだっているのは、大変ありがたいです。色々な考え方やセンスを持たれた方、様々な年齢やご職業の方が、「なのはな」に関わって頂くことで、利用者の方が新しい力を発揮されたり、職員だけでは気づけなかったことを教えて頂いたりしています。日曜大工の楽しさを伝えて頂いたり、和やかな喫茶や、にぎやかなバーベキューの機会をもてたり、様々なお仕事の様子をお聴きしたりして、利用者の方がいつも以上の笑顔を見せられています。

ボランティアの方の中には、私の学生時代の恩師がおられます。人生の基礎を指導して頂いた恩師に今の私の仕

高校時代に得たもの

小林 香苗

高校五十六回（平成十六年卒）

二〇〇四年度に佐用高校を卒業しました小林（旧姓中川）香苗と申します。

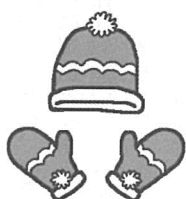
高校時代は普通科、部活動ではバスケットボール部に所属し、学業や部活動に勤しんでおりました。

卒業後に神戸の大学に進学し、現在はIT関連の会社に勤めております。

佐用高校卒業後にすぐに地元を離れた為、連絡はとっていたものの高校時

事を見て頂くのは、緊張する面がありますが、初心に立ち返ることの大切さを教えて頂く貴重な機会でもあります。地元で働くことの人と人とのつながりのありがたさを感じます。

最後に、現役の佐用高校の皆さん、勉学や部活動など、たくさんしたいことがあると思います。冬休み、春休み、夏休み、是非、「なのはな」にも立ち寄ってみて下さい。普段の生活とは違う、時間の流れや人生の味わいなどきつと発見があるのではないかと思います。ご自身の新たな面を発見する機会にもなるのではないかと思います。



代の友人と会う機会がかなり少なくなっていました。

さらに現在の会社に入社し、入社当初は本社の東京で働いていたのですが、二〇一一年の一月に仙台の支社に転勤し、ますます地元から離れてしまいました。

そんな中、仙台への転勤後すぐに東日本大震災に遭いました。

その時にいち早く連絡をくれたのが高校の時の友人達でした。

「ニュースを見て一番に香苗の事が頭に浮かんだ。大丈夫!」

「何か必要な物があれば送るよ!」

ライフラインは全て停止し非常に厳しい状況でしたが、温かい言葉を沢山頂きとても励まされ、災害時の辛い状況を乗り切る事が出来ました。

また、そんな温かい言葉をくれた友人達に感謝すると同時に高校時代に培った友情の素晴らしさを再確認出来ました。

その後、地震の影響で延期していた結婚式も無事開催する事が出来ました。諸事情により横浜で開催した為、地元の人々には遠方まで足を運んで頂く事になりましたが、嫌な顔一つせず出席して頂き友人達の懐の深さにとっても感激しました。

又、久しぶりに会った友人達は良い意味で高校時代から変わっておらず、ホッと安心したのを覚えています。

そんな素晴らしい友人に出会えた高校生活は私にとって無くてはならないものです。

又、今後も東北での生活を予定している為、地元に戻る回数は少なくなるかと思いますが、これからも友人達との関係をずっと大切にしていきたいです。



在校生だより

地球の裏側へ

十一月二日から十一月十七日まで私はブラジルに研修へ行ってきました。

例えば参加のきっかけは五月に応募の用紙を渡されの始まりでした。その時は特別行きたいとは思っておらず、なんとなくで参加を希望しました。しかし参加に必要な費用を手にした時、真剣に取り組まなければいけないと無意識に自覚させられたのを覚えています。三回の事前研修や結団式を通して私はより一層研修への意欲がわきました。ブラジルまでの道のりはソウルまで一時間、ロサンゼルスまで十二時間、サンパウロまで十二時間の計二十五時間。研修よりこの移動の方がしんどかったです。

空港を出てまず私は土の赤さに驚きました。帰るころには靴が赤色になりました。

ブラジルは何もかもが大きく、日本では絶対に見れない地平線を見たときはこの国の大きさを身染みて感じました。

この研修の一番の思い出はアプカラーナの農業高校生との交流です。むこう

二年一組 居合 敬太

の人々と農業のことについて意見を交換したのはもちろん、サッカーをしたりや一緒に実習をしたり写真を撮るなどして本当に楽しい時間を過ごしました。

私はこれまで家族に偏見の魂と言われるくらい国際的視野がせまく、外国にも自国にもあまり良い印象をもっていなかったのですが、この研修に参加したことで外国や外国の人達はもちろん日本のことももっと好きになりました。いい思い出となり、自身を成長させる有意義な研修になりました。

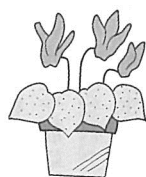
ボランティアに参加して

三年五組 桑原 成就

私は今まで三度の復興支援ボランティアに参加しました。震災直後から現地に行ってボランティアをしたいと思っていて昨年の夏に第一回の募集がかかった時、迷わず参加を決めました。その後は何かしたいという気持ちの他に時間が経つにつれて東北の街がどの様に

変わっていくかを自分の目で見ていたいという気持ちにも生まれ何度もボランティアに参加しました。

初めてボランティアに行き被災地の現状を見た時、私は愕然として何も言う事が出来ませんでした。津波でひっくり返った建物、三階建ての家屋の上





にのっているバス、流された車のガソリンがもれ波と共に校舎におしよせ、それに引火して燃えた小学校等多くの場所の痛ましい光景は今でも忘れる事が出来ません。しかしこんな大災害があっても東北の方々が下を向く事はなく、震災直後から常に前を向いて復興に向けてみんなで力を合わせて歩んでこられました。活動中も笑顔で接してくださって励ますはずの私達が逆に元気をもらったり、本当にありがたかったです。東北の方々は強いなと感じました。

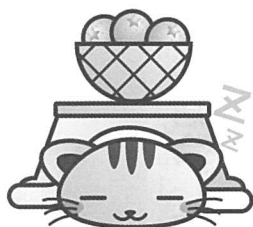
また現地で活動されているNPO法人「め組JAPAN」の方々とともに

緒に活動をしました。め組の方には写真や映像をまじえて今までの活動内容を教えていただいたり、被災地の案内をしていただいたりと大変お世話になりました。教えていただいた事はどれも勉強になる事ばかりで、それをこれからの活動に生かしていこうと思います。

このボランティアは私にとつて本当にかげがえのないものになりました。多くの出会いや経験を通じて一回りも二回りも成長できたと思います。め組の方は「動けば変わる、微力だけど無力ではない」とおっしゃっていました。

私達の出来る事は少ししかありませんが、それが少しでも復興の手助けになつてくれればいいなと思います。

貴重な体験をする事が出来て本当に良かったです。



谷本会長

「黄綬褒章」受章

この度、谷本会長が黄綬褒章を受章されました。黄綬褒章は、「業務に精励し衆民の模範たる者」に授与されます。谷本会長は、永年、印刷業に関わり、さまざまな出版物を世に送り出し、活字文化を支えてきました。

また、佐用町商工会長として町内の復旧・復興にご尽力されました。地域の発展を願い、道一筋に歩んで来られたことが認められ、この度の受章となりました。おめでとうございます。

同窓会名簿の発行について

五年ごとに発行しています。同窓会名簿を平成二十五年七月上旬に発行いたします。

現在、名簿作成の専門業者「株式会社サラト」に委託して発行の準備をすすめております。

すでに発行のお知らせが届いているかと思いますが、よろしくお願いいたします。

紛らわしい名簿発行や不審電話には、くれぐれもご注意ください。

佐用高校塔陵会会則

(第1章 総則)

- 第1条 本会は兵庫県立佐用高等学校塔陵会と称する。
- 第2条 本会は事務所を兵庫県立佐用高等学校内に置き、地区別に支部を置く。
- 第3条 本会は会員相互の親睦向上を図り母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会の目的を達するため下記の事業を行う。
- 1 会報及び会員名簿の発行
 - 2 研究並びに修養に関する会合の開催
 - 3 母校の各種事業の後援
 - 4 会員の慶弔に関すること
 - 5 その他必要と思われる事業

(第2章 会員)

- 第5条 本会々員を下記の4種とする。
- 1 通常会員 佐用郡立佐用農蚕学校卒業生
兵庫県立佐用農蚕学校卒業生
兵庫県立佐用高等学校卒業生
 - 2 準会員 兵庫県立佐用高等学校在校生
 - 3 特別会員 母校の現在職員
 - 4 客員 母校の旧職員並びに学校団体功労者又は篤志者で本会役員会で推薦したもの。

(第3章 役員)

- 第6条 本会に下記の役員を置く。
- 1 会長 1名 会員中より役員会で候補者を選出し総会で選任する。任期2ケ年、但し留任をさまたげない。尚改選期の通常総会が任期満了後に行われる時は、任期満了後といえどもその年度の属する通常総会迄その任務を遂行するものとする。
 - 2 副会長 4名 会員中より会長の推薦により総会において選任する。任期2ケ年但し改選期の通常総会が延引した場合は会長任期の但し書に準ずる。
 - 3 支部長 各支部において選出し、会長はこれを委嘱する。
 - 4 支部委員 各支部において若干名選出する
 - 5 代議委員 每期卒業生より代表2名選出する。
 - 6 会計 1名 校内委員より会長これを委嘱する。任期1ケ年。
 - 7 書記 1名 校内委員より会長これを委嘱する。
 - 8 顧問 顧問は総会において推薦し、会長これを委嘱する。
 - 9 監事 3名 支部委員、代議委員中より選出し、会長これを委嘱する。
 - 10 校内委員 校内会員中より若干名を選出する。
- 第7条 本会役員の任務は下記のとおりとする。
- 1 会長 本会を代表し、会務を処理する。
 - 2 副会長 会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
 - 3 支部長 各支部の会務を掌り本部との連絡提携をはかる。
 - 4 支部委員 その支部の会務を掌り支部長との連絡提携をはかる。
 - 5 代議委員 当期の代表として本会運営に参与する。

- 6 校内委員 事業の企画遂行につき協議参与する。
- 7 書記 本会と母校の連絡提携をはかり本会運営を助ける。
- 8 会計 本会の会計を掌る。
- 9 顧問 顧問は会長の諮問に応える。
- 10 監事 本会の会計を監査する。

(第4章 会議)

- 第8条 定時総会は毎年母校において開催する。
総会は出席の多寡に関わらず成立し、議決は出席者の過半数による。
総会における議長は当日出席の会員中より選出する。
- 第9条 役員会は会長これを招集する。
本部役員会は会長、副会長、監事、校内委員を以て構成する。
正副支部長会は正副支部長及び本部役員を以て構成する。
- 第10条 役員会は下記の事項を管掌する。
予算及び決算に関すること、総会及び親睦会・支部大会に関すること、会則の変更
更改廃に関すること、その他必要と認められる事項。
- 第11条 本会員は身上住居などに異動を生じたときは直に本部にその旨通知する。

(第5章 会計)

- 第12条 本会の経費は入会金、会費及び特別会費並びに寄附金を以て充てる。
- 第13条 準会員となったとき会費として毎月300円納入するものとする。
2 準会員は本会の入会金として、1,000円納入するものとする。
- 第14条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
なお、総会までは、役員会の承認を得て、暫定的に予算執行出来るものとする。

(第6章 附則)

- 第15条 本会会則の変更改廃は総会の承認を経ることを要する。
- 第16条 本会々則に付帯する細則は役員会においてこれを別に定める。
- 第17条 補則
- 1 昭和56年8月23日（日）総会に於いて一部（6条、8条、12条）改定す。
 - 2 平成3年7月6日（土）総会に於いて一部（6条）改定す。
 - 3 平成9年7月5日（土）総会に於いて一部（12条、17条）改定す。
 - 4 平成10年7月18日（土）総会に於いて一部（13条）改定す。
 - 5 平成22年8月21日（土）総会に於いて一部（4条、8条、12条、13条）改定す。
 - 6 平成24年7月28日（土）総会に於いて一部（1条、6条、7条、8条、9条、14条）改定す。

母校だより

母校の近況

教頭 栗林孝一

●就職について

本年度も雇用の情勢は厳しい状況である。昨年度、本校に初めて就職支援員が配置され、企業訪問・開拓の充実に繋がりました。本年度は、配置がない状態で、求人数が増加しました。その内訳は、西播磨地域の求人数は、やや減少したものの、その他の地区の求人数が増加しました。ただし、そのほとんどが公開求人である。

学校紹介による就職内定者は11月6日現在52名で内定率は94・5%となっています。一次不調の原因として筆記試験での学力不足、面接試験での不調が2大要素です。今後の課題として、学校の基本的な生活習慣の確立、学力の向上、コミュニケーション能力の向上等の指導を強化したいと考えています。

●進学について

夏からAO入試が、10月から指定校推薦入試が実施され、その他の入試も順次実施されています。現在、私立の四年制・短期大学へ16名の生徒が、専門学校へ39名の生徒が合格いたしました。(校内届け出分。11月12日現在)

校内ではこれらの入試に対応して、10月以降、面接練習を実施してまいりました。また、今後続くセンター試験、私立大学一般入試、国公立の二次試験に向け、早朝や放課後の補習、土曜日の模擬試験や学習会など、今年度もがんばっています。

平成24年度

佐用高校生の活動状況

1 運動部(主な戦績)

《陸上競技部》
○日本ユース選手権

男子 10000m競歩
西川 尚孝

○全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会
男子 5000m競歩
西川 尚孝

○全国高等学校陸上競技対校選手権大会
男子 5000m競歩
西川 尚孝

○西播磨高等学校駅伝競走大会
男子 5位 2時間26分23秒
(39年連続県大会出場)

《硬式野球部》
○秋季西播大会
1回戦 6対4 相生
2回戦 16対0 太子
3回戦 8対7 赤穂
代表決定戦 2対0 相生
県大会 2対4 加古川北

《卓球部》
○前期西播大会
男子 団体 3位 県大会へ
女子 団体 ベスト8 県大会へ

○後期西播大会
女子 団体 ベスト8 県大会へ

学校対抗 団体 ベスト8 県大会へ

ダブルス 重内 横山ペア 県大会へ

《柔道部》
○前期西播大会
男子 60kg級 石原 俊文 県大会へ
66kg級 坂井 大良 県大会へ

○後期西播大会
男子 66kg級 坂井 大良 県大会へ
70kg級 岡本 一沙 県大会へ

《剣道部》
○西播磨高等学校剣道大会
女子 個人戦 ベスト8 前田 侑花 県大会へ
女子 団体 県大会へ

○後期西播大会
女子 団体 県大会へ

○西播磨新入剣道大会
女子 個人戦 ベスト16 船引 千春 県大会へ
男子 杉光 鎌内 県大会へ

《バドミントン部》
○新人バドミントン選手権大会
男子 杉光 鎌内 県大会へ

《ソフトテニス部》
○後期西播大会
男子 団体 県大会へ

2 文化部(主な活動)

《JRC部》
○兵庫県高等学校青少年赤十字協議会加盟式(日本赤十字兵庫県支部参加)

○サンホームみかづき納涼祭ボランティア

○手をつなぐ育成会鮎狩り大会ボランティア

○朝陽ヶ丘荘 納涼祭ボランティア

○いちょう園運動会 ボランティア

○播磨園祭ボランティア

《吹奏楽部》
○佐用町さくら祭りでの演奏
区大会銀賞

○障害者支援施設 播磨園 播磨園祭での演奏

○J A兵庫西 佐用農業祭りでの演奏

○佐用町 手をつなぐ育成会での演奏

《美術部》
○平成24年度西播磨高校美術展 出品
平成24年度県高等学校総合文化祭美術・工芸部門展 出品

○姫新線マナーアップキャンペーンポスター

1年 山崎 麻友

《囲碁・将棋部》
○県総合文化祭将棋部門 団体戦参加予定

《琴部》
○塔陵祭 参加

○第20回観月の夕べ

○清流の郷音楽祭

《写真部》
○西播春季写真コンテスト出品
2年 長谷川佳奈 佳作(モノクロ)

2年 榎本 怜 佳作(カラー)

○兵庫県春季写真コンテスト出品
2年 長谷川佳奈 佳作
2年 長谷川佳奈 ファミリー賞

○塔陵祭作品展示発表(最優秀賞)

○第36回全国高等学校総合文化祭写真部門出品 3年 山崎 裕太

○西播秋季写真コンテスト出品
1年 千古 慎 佳作

○大阪ガスDILIP姫路にて作品展示

○第35回兵庫県高等学校総合文化祭写真部門出品
1年 千古 慎 佳作

《茶道部》
○姫路市の姫路城西御屋敷跡庭園「好古園」において、観光客や一般の方々にもてなしのしるしを差し上げるボランティアを行った。

《書道部》
○第23回ひょうご女性未来会議in西はりま 書道パフォーマンス
○四国大学主催 第41回全国高校書道展出品
○第11回岐阜女子大学全国書道展出品
○西播磨オータムフェスタin光都2012 書道パフォーマンス
○さよう文化祭 書道パフォーマンス

《ESS》
○塔陵祭「おおかみと7匹の子やぎ」
○第29回スピーチコンテスト
1年 藤本万里奈

《放送回好会》
○体育大会放送担当

3 その他の活動

《生徒会》
○塔陵祭：テーマ「つなげよう命今生きていくこの瞬間」。昨年の東日本大震災に続く、和歌山・奈良県を襲った台風被害、さらに今年に入って発生した竜巻被害の犠牲者を悼み、被災者を励ます。

《読書感想文》
○第58回青少年読書感想文播磨西コンクール
最優秀 1年 重内 里香
「天国の郵便ポスト」を読んで
佳作 1年 山崎 麻友
「せんせい」を読んで

○交通安全マスコット配布
○あいさつ運動
○校外義援金活動の実施
○姫路駅にて2日間実施し、約54万円の義援金を九州の被災地へ送る。
○カープミラー清掃・佐用駅舎清掃活動

《農業クラブ》
7月 第60回兵庫県学校農業クラブ連盟大会 県立農業高等学校意見発表競技 食料・生産の部優秀賞 安藤竜也

11月 収穫感謝祭
12月 感謝即売会
《学校家庭クラブ》
9月 交通安全マスコット配布
10月 施設訪問(フアッションショー) 佐用町文化祭(フアッションショー・バザー) 保育所訪問
兵庫県総合文化祭(バザー) 味わいの里三日月祭
感謝即売会
神戸フアッションデザインコンテスト
2月 施設訪問
家庭クラブ総会

《ボランティア活動等》
○東日本大震災復興支援ボランティア活動 報告会
○東日本大震災復興支援ボランティア活動 7月13日(金) 15日(日) 宮城県石巻市 仮設住宅に花の植栽
生徒 20名 職員 3名
○高校生防災ユニバリーダー
7月21日(土) 22日(日) 旧淡路高校一宮校 生徒 4名
○九州豪雨災害の募金活動
8月4日(土) 5日(日) 姫路駅前生徒 PTA 職員 47名参加
○防災教育報告会
10月3日(水) 全校集会
高校生防災ユニバリーダー
東日本大震災復興支援ボランティア活動

平成24年度
在籍生徒数

(11月1日現在)

	1 年	2 年	3 年	計	学級数
普 通 科	1 5 9	1 5 2	1 4 4	4 5 5	1 2
農業科学科	3 6	3 5	3 6	1 0 7	3
家 政 科	4 0	2 9	2 4	9 3	3
合 計	2 3 5	2 1 6	2 0 4	6 5 5	1 8

進路状況
平成23年度(64回生)進路状況

		合 計			農業科学			家 政		普 通		
		男	女	計	男	女	計	女	計	男	女	計
卒	業 者 数	100	103	203	37	1	38	29	29	63	73	136
進	大 学 (通信制含む)	38	30	68	3	0	3	4	4	35	26	61
	短 期 大 学	0	6	6	0	0	0	0	0	0	6	6
	専 修 ・ 各 種 学 校	23	37	60	10	1	11	12	12	13	24	37
	そ の 他 ・ 未 定	3	1	4	0	0	0	0	0	3	1	4
	計	64	74	138	13	1	14	16	16	51	57	108
就	民 間 企 業	33	28	61	22	0	22	13	13	11	15	26
	公 務 員	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
	縁 故	2	1	3	1	0	1	0	0	1	1	2
	家事手伝い・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	36	29	65	24	0	24	13	13	12	16	28

平成 23 年度
同窓会会計決算書

収入総額 6,288,150円
支出総額 2,843,776円
差引残額 3,444,374円……次年度繰越

収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
繰 越 金	2,427,892	2,427,892	0	
会 費	2,358,000	2,311,800	△ 46,200	300円×12ヶ月×生徒数
入 会 金	240,000	240,000	0	1,000円×240人
繰 入 金	0	947,155	947,155	創立記念特別会計から繰入
雑 収 入	1,108	361,303	360,195	寄附金、名簿代、預金利息
計	5,027,000	6,288,150	1,261,150	

支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	残 額	備 考
会 議 費	50,000	59,117	△ 9,117	講師謝礼 総会お茶代
部 活 動 後 援 会 費	200,000	200,000	0	部活動後援会費補助
負 担 金	200,000	200,000	0	佐用高校を育てる会補助
通 信 費	50,000	12,438	37,562	切手、はがき代、資料発送代
広 報 費	1,700,000	1,335,519	364,481	会報「塔陵」印刷、発送代、寄稿お礼
支 部 活 動 費	140,000	138,000	2,000	各支部へ
体 育 奨 励 費	30,000	15,000	15,000	図書カード(5名)
旅 費	50,000	0	50,000	
会 館 維 持 費	420,000	101,167	318,833	塔陵館調理室備品
雑 費	50,000	10,680	39,320	振込手数料
予 備 費	2,137,000	771,855	1,365,145	エアコン設置工事
計	5,027,000	2,843,776	2,183,224	

同窓会の動き

副会長 矢内 作夫
高校(普) 20回卒

平成24年4月9日 第六十七回生 入学式

平成24年6月6日 第一回本部役員会

平成24年7月9日 第二回本部役員会

平成24年7月28日 同窓会総会(於…塔陵館)

平成24年10月29日 第一回『塔陵34号』編集委員会

平成24年11月22日 佐用高校を育てる会

平成24年11月29日 第二回『塔陵34号』編集委員会

平成24年12月15日 同窓会報『塔陵34号』発行

平成25年2月28日 第六十五回生 卒業式

塔陵会(同窓会)総会について

去る、七月二十八日(土)に塔陵館において、塔陵会(同窓会)総会が開催されました。議案については提案のとおり承認されました。

続いて、記念講演会があり、山崎町の西願寺住職 佐々木大観先生に「人生の先輩として」と題して、貴重なご講話をいただきました。

同窓会総会が会員にとって、より身近なものとなり、同窓会活動が一層盛り上がるようにと、同窓会会員全員を対象に同窓会総会を七月に行っています。

会員の皆様のご参加をお待ちしています。

平成二十四年度

新役員・新代議員

平成二十四年度職員人事異動

【同窓会本部役員】

会長 谷本 学
副会長 矢内 作夫

監事

【校内委員】

校長 河野 雅晴
教頭 栗林 孝一
事務長 三木 義則

稲田 久富
来女木 隆勝
春名 昌史
上村 良友
垣内 勝也
敏森 利也
吉永 江利
井村 ユカリ

【新代議員】

第六十四回生

(平成二十四年三月卒業)

一組 濱田 悠佑
二組 高見 沙弥
三組 永本 愛華
四組 小竹 益啓
五組 久保 理奈
六組 湯坂 啓介

◎転出(新勤務地)

寺田 文章

山崎 孝

西田 芳孝

中嶋 北高

小嶋 昌史

大前 尚子

田村 倫子

高嶋 利行

中嶋 浩一郎

木村 朱美

平良 梨紗子

山口 裕貴

山崎 貴

大矢 つかさ

峰 伊川谷 紀子

堂 在家庭

重山 幸二朗

水田 起公子

西はりま特別支援学校

在家庭

◎転入(旧所属)

児島 義人

姫路飾西高校

馬場 英昭
春名 隆行
三輪 昌慶
寺脇 響彦
杉本 裕章
川崎 英幹
長谷川 愛
重白 千紘
谷口 春夫
三河 有葵
池谷 光
岡祐 依
細川 雅代
市村 香織
岡野 三枝

◎新正副支部長

徳久支部 支部長 畑中 邦央
長谷支部 支部長 田邊 勝万
江川支部 支部長 茅原 一仁
山崎支部 支部長 笹田 鈴香
副支部長 吉岡 利治

【編集委員】

(◎印は長・○は副)

◎小林 君江 栗林 孝一
○矢内 作夫 三木 義則
○花高 イヨ 稲田 久富
○福本 美昭 来女木 勝
○春名 満 春名 隆行
○塚崎 康則 上村 昌史
○分元 彰宏 垣内 良友

美作支部 副支部長 小林 正樹
副支部長 吉岡 利治

編集後記

一年に一回発行される『塔陵』が届くのが待ち遠しい。こんな嬉しい言葉に励まされ、今年も皆さんにお届けすることが出来ました。頑張っている後輩達の活躍もじっくりと見てやってください。(K)

同窓会ニュース

同窓会のホームページを開設しました。内容は同窓会ニュース、同窓会だより(同窓会報「塔陵」)も掲載中です。是非ご覧ください。

*ホームページアドレス

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/dosokai/index1.html>